

景況調査

報告書 NO. 25

平成16年 10月～12月 実績
平成17年 1月～3月 見通し



蒲郡商工会議所
中小企業相談所

平成16年度第3四半期(H16.10~12月)景況調査

1. 調査時点 平成17年1月
 2. 調査対象
 (1) 対象地区 蒲郡市内
 (2) 対象(回答)企業 147[140企業、7団体 = 三河織物工業(協)、中部繊維ロープ工業(協)、蒲郡市上下水道工事(協)、蒲郡建設業(協)、三河繊維産元(協)、蒲郡地区旅館組合、蒲郡鉄工会]

3. 調査方法 聞き取り調査によるアンケート調査

4. 回答企業の内訳

業種	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	運輸通信業	全業種
合計	57 (3)	10 (2)	22 (1)	32	16 (1)	10	147 (7)

()は団体

5. 概況

全業種総合判断DI値(当期実績)は、前年同期比で見ると 29.2、前期(7~9月・23.0)と比較すると6.2ポイントの下降、悪化の傾向が見られ、前期比で見ると 18.4、前期(7~9月・26.4)に比較すると8.0ポイントの上昇、改善の傾向が見られた。また、**売上DI値**について、前期比で見ると 4.1、前期(7~9月・9.4)と比較すると5.3ポイントの上昇、改善の傾向が見られた。**収益DI値**は 25.8、前期(7~9月・28.4)と比較すると2.6ポイントの上昇、改善の傾向が見られた。**総合判断来期(H17.1~3月)見通し**については、24.5、前期(7~9月・6.1)と比較すると18.4ポイントの下降、悪化の傾向が見られる。

「**製造業**」のうち**食料品**は、年末の需要期であるため好転している。しかし原材料高や小売業者からの値下げ要請などによる利幅圧迫で、厳しい状況である。**織物**は、ジャカード・カーテン、ドビー・カーテンともに、仕事量は少なく、また白生地織物も広幅・並幅を問わず、仕事量は少なく稼働率も80%程度である。先染織物についても、ほとんど仕事がなく、白生地を織っている。**漁網・ロープ**のうち、繊維ロープは、改善はしているが原材料高を受け、売価への転嫁に苦慮している。漁網は、買換え需要が旺盛のため増加している。**鉄工**のうち、工作機械関係は、輸出・国内向けとも、堅調に生産・売上を維持している。自動車関連は、工賃は厳しいが、小型車から大型車へシフトも見られ、新車効果による高いレベルの生産・売上が続いている。**化学・プラスチック**のうち、化学工業は、原油高による原材料費の増加により、収益は上がらない状況である。プラスチック加工は、原材料に対し受注単価の値上げ交渉が伴わず収益悪化の状況である。

「**建設業**」は、全体としては、受注減競争激化により、採算的にも厳しい状況が続いている。

「**卸売業**」のうち**繊維卸**は、産業資材関連：夏以後ますます荷動きが読めなく悪くなって来ている。商品の動向がつかめない。寝装関連：ガーゼ素材を中心にカバー用ギフト関連で増量が見込めるが、ケット用としては一服感が見られる。数年来、皆無であった素材で麻100%の引き合いが活発である。インテリア関連：各社新柄の注文が入り始め、これから期待するところである。三河産地が、設備投資など前向きな話は無く、一番悪いと言った声がある。衣料：冬物衣料の店頭での売行きが不振と伝えられる中、春物仕込みにも影響が予想され、盛り上がりの無いままのシーズンになっている。

「**小売業**」は、カインズ、ベイシアに続きサンヨネ、エイデンの相次ぐ大型店の開店により個店のみならず大型店にも売上に影響が出ている。TMO(中心市街地活性化)事業として、福寿稲荷ごりやく市が月1回開催され、中央通りに多く集客し健闘した。**石油**は、前半の販売量は暖冬が影響し前年、前々年大幅減販となった。前年並みの販売量は期待薄と思われ、深刻である。

「**サービス業**」のうち**旅館**関係は、秋の行楽、冬の忘年会シーズンとしてトップシーズンであるが、東名工事の集中工事、台風の塩害、暖冬による香嵐渓の不振により思ったより低調であった。忘年会においても利用料金の低下・付帯売上の落込みもあり全体的に渋い。

「**運輸通信業**」のうち**旅客・貨物輸送・水運**は、海運関係：輸入原木、木材製品は例年並である。輸入肥料は大型船での入荷あるものの輸出車は無かった。陸運関係：一般貨物については、暖冬のため動きが鈍く、小口貨物については、お歳暮・自動車部品などは増加傾向にある。バス業界：台風の上陸や暖冬のため旅行のキャンセルや需要の減少が影響し、前年と比べ悪化した。

設備投資状況は、全般的には低調で、31事業所(43件)で設備投資が実施され、生産設備・車両運搬具・OA機器が上位にランクした。来期は34事業所(47件)が設備投資を計画されている。

経営上の問題点では、売上の停滞・減少、利幅の縮小、競争激化が項目別・業種別で上位を占めていた。

当地区においても、依然としてデフレの長期化、雇用の停滞、個人消費の低調、設備投資の低調、原油価格高騰による原材料価格の上昇、住宅着工数の低調、中国・アジア製品の輸入拡大、円高等の影響により、10~12月期の業況判断DIは、食料品・鉄工以外は水面下であり、来期見通しについてもやや厳しい。このたび蒲郡商工会議所は新体制のもと、各分会から出てきた課題や要望をまとめ、今後取り組む重点事業としてアクションプラン案が承認され具体化される。

全業種(当期実績)

(DI 単位:%)

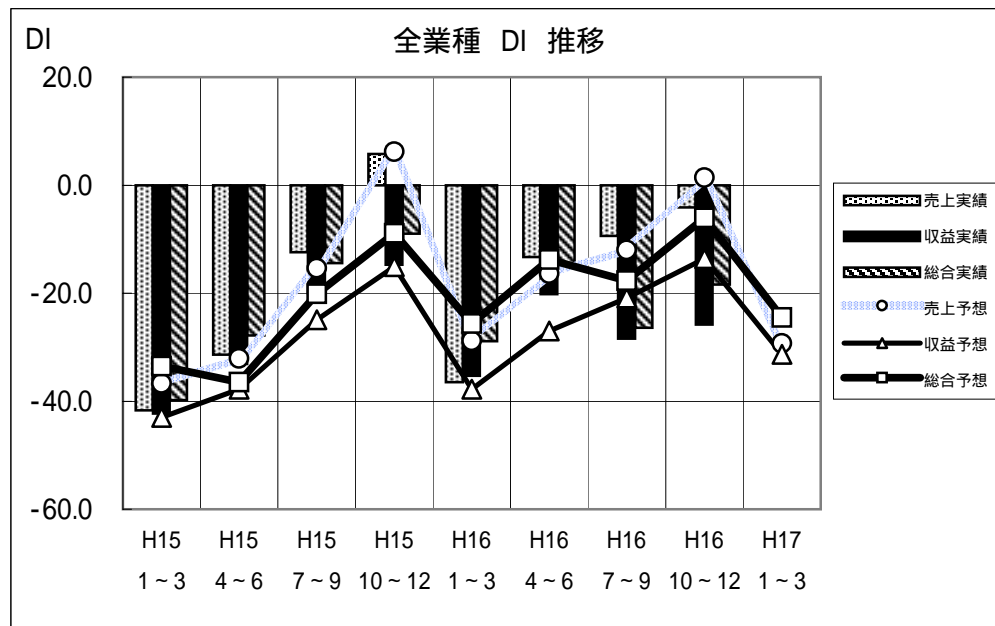
<全業種 各項目別推移>

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成15年10月~12月 に比べて	前期比 平成16年7月~9月 に比べて	来期見通し 平成17年1月~3月 の見通し		売上		収益		総合判断		
					前年同期比	前期比	前年同期比	前期比	前年同期比	前期比	来期見通し
生産額・売上額	-29.9	-4.1	-29.3	H15.10~12月実績	-19.9	5.8	-24.4	-14.7	-17.9	-9.0	-25.6
製品・商品在庫	-10.2	-10.2	-8.9	H16. 1~3月実績	-18.9	-36.5	-27.1	-35.3	-19.5	-28.9	-13.8
資金繰り	-19.7	-16.3	-17.7	H16. 4~6月実績	-17.1	-13.3	-24.0	-20.2	-16.5	-14.5	-17.7
採算(収益)	-36.0	-25.8	-31.3	H16. 7~9月実績	-13.5	-9.4	-31.1	-28.4	-23.0	-26.4	-6.1
従業員数(含む臨時・パート)	0.0	0.0	-4.0	H16.10~12月実績	-29.9	-4.1	-36.0	-25.8	-29.2	-18.4	-24.5
貴社の業況(総合判断)	-29.2	-18.4	-24.5								

[総合判断]

業種	前年同期比	前期比	見通し	業種	前年同期比	前期比	見通し
全業種				卸売業			
				(繊維卸)			
製造業				小売業			
(食料品)				(飲食)			
(織物)				(石油等その他小売)			
(漁網・ロープ)				サービス業			
(鉄工)				(旅館)			
(化学・プラスチック)				運輸通信業			
建設業				(旅客・貨物輸送・水運)			



< 業況判断DIの推移 >

	H15.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	H16.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	H17.1~3月見込み
売上	-41.7	-31.4	-12.4	5.8	-36.5	-13.3	-9.4	-4.1	-29.3
収益	-42.3	-33.1	-20.0	-14.7	-35.3	-20.2	-28.4	-25.8	-31.3
総合	-39.8	-27.8	-14.4	-9.0	-28.9	-14.5	-26.4	-18.4	-24.5

DI (デフュージョン・インデックス 業況判断指数) について

DIは景気が上向きか、下向きかを表す指数である。

DI(%) = 増加・良好などの割合 - 減少・悪化などの割合

(注) 生産額・売上額 : DI = (増加) - (減少)

製品・商品在庫 : DI = (減少) - (増加)

資金繰り : DI = (好転) - (悪化)

採算(収益) : DI = (上昇) - (下降)

従業員数 : DI = (不足) - (過剰)

業況(総合判断) : DI = (好転) - (悪化)

DIが0より大 景気上向き

DIが0 景気横ばい

DIが0より小 景気下向き

(総合判断のDIの目安)

DI 50%以上



DI 6 ~ 49%



DI 5 ~ -5%



DI -6 ~ -49%



DI -50%以下



6. 業種別報告

製造業

売上DI値は5.3、前期実績7～9月期（ 5.2）に比して10.5ポイントの上昇。収益DI値は15.8、前期実績7～9月期（ 24.1）に比して8.3ポイントの上昇、総合判断DI値は 8.7、前期実績7～9月期（ 20.7）に比して12.0ポイントの上昇、いずれも改善傾向であった。見通しとしては、売上・収益・総合とも悪化傾向である。

製造業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成15年10月～12月 に比べて	前期比 平成16年7月～9月 に比べて	来期見通し 平成17年1月～3月 の見通し
生産額・売上額	-8.8	5.3	-14.0
製品・商品在庫	-5.2	-5.2	-8.7
資金繰り	-17.6	-8.7	-12.2
採算(収益)	-22.8	-15.8	-17.5
従業員数(含む臨時・パート)	0.0	0.0	-5.3
貴社の業況(総合判断)	-14.0	-8.7	-15.8

[食料品]

売上は、前期比ではDI値33.4%と、年末の需要期であるため好転している。前年同期比ではDI値0.0%と横バイにある。収益は、前期比ではDI値 11.1%、前年同期比ではDI値0.0%と悪化傾向にある。原材料高や小売業者からの値下げ要請などによる利幅圧迫で深刻な状況にあり、合理化に取り組み、いかに製造コストを削減するかがポイントとなる。総合判断は、前期比ではDI値11.1%、前年同期比ではDI値0.0%とほぼ横バイにある。

向こう3ヶ月の見通し

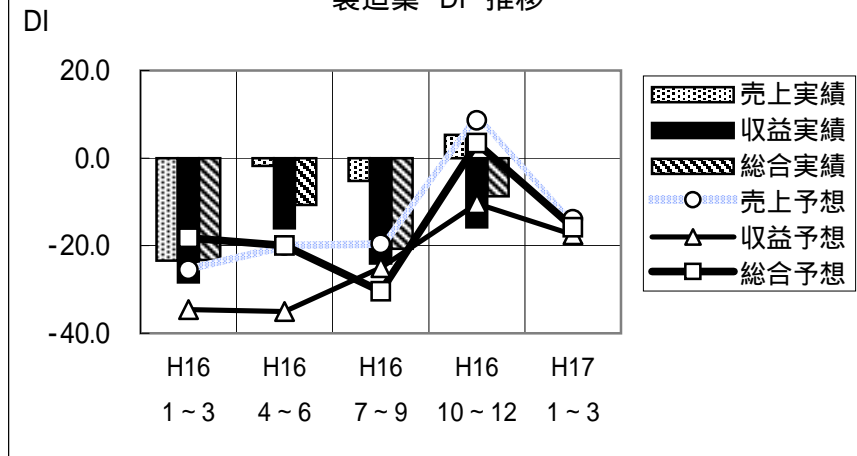
売上はDI値 66.7%、収益はDI値 44.4%、総合判断ではDI値 33.3%と、需要期を過ぎ厳しい状況が予想される。グローバル化の進展による価格競争にさらされており、国内の原料加工産業にとって経営環境は厳しさを増している。また食の安全が一層強く求められており、衛生管理の徹底の他、トレーサビリティの導入が今後の課題となってくるであろう。(食品部会)

(食料品)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成15年10月～12月 に比べて	前期比 平成16年7月～9月 に比べて	来期見通し 平成17年1月～3月 の見通し
生産額・売上額	0.0	33.4	-66.7
製品・商品在庫	11.1	0.0	-22.2
資金繰り	-11.1	0.0	-33.3
採算(収益)	0.0	-11.1	-44.4
従業員数(含む臨時・パート)	11.1	22.2	-11.1
貴社の業況(総合判断)	0.0	11.1	-33.3

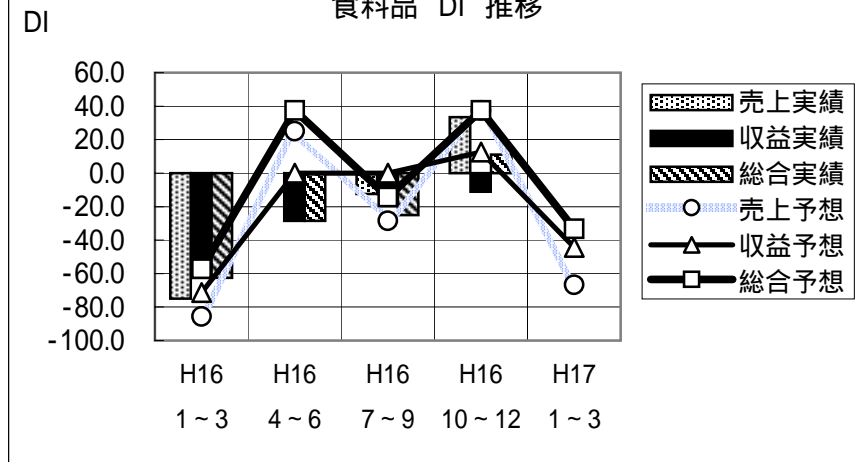
製造業 DI 推移



<業況判断DIの推移>

	H16.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	H17.1～3月見込み
売上	-23.4	-1.8	-5.2	5.3	-14.0
収益	-28.4	-16.0	-24.1	-15.8	-17.5
総合	-23.3	-10.7	-20.7	-8.7	-15.8

食料品 DI 推移



<業況判断DIの推移>

	H16.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	H17.1～3月見込み
売上	-75.0	0.0	-12.5	33.4	-66.7
収益	-62.5	-28.6	-12.5	-11.1	-44.4
総合	-62.5	-28.6	-25.0	11.1	-33.3

[織物]

主力商品であるジャカードカーテンについては、全体に仕事量は少なく、稼働率は50%前後である。ドビーカーテンについても、仕事量は少ない。白生地織物は、広幅・並幅を問わず仕事量は少なく稼働率は80%前後である。先染織物は、仕事が殆どなく、白生地を織っている状況である。しかし、何れも原材料費の上昇から採算面は非常に厳しい状況が続いており、期近発注による短納期化・少ロット化が進み稼働率は非常に悪くなっている。

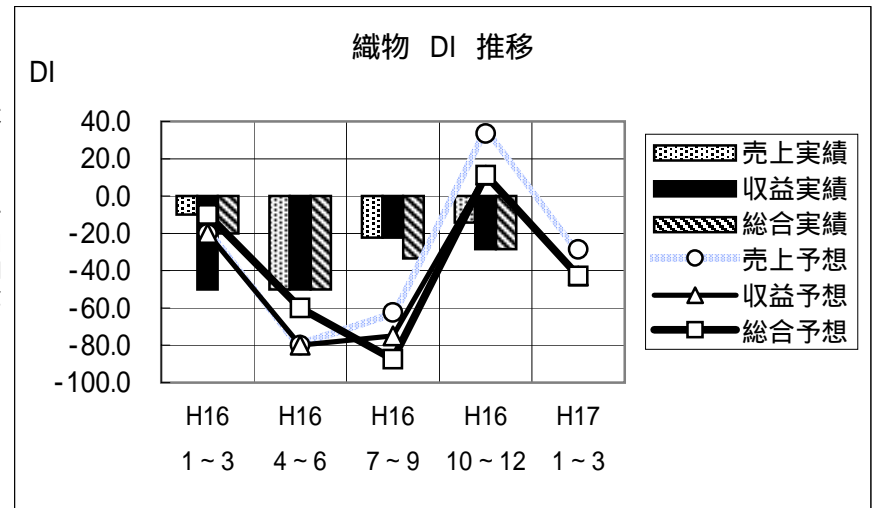
今後の見通し、

ジャカードカーテンは、仕事量の増加は見込まれず、横バイであれば上々と思われる。ドビーカーテンについては、仕事量は不安定であるが、期待を含め多少回復する見込みである。白生地織物は、仕事量の増加は見込みうすく、横バイであれば上々と思われる。先染織物は、春夏物が主力であり仕事量の増加を期待しているが、現状と同じ状況が続くと思われる。採算面で非常に厳しい状況が続いている中で、原油高による影響で合繊糸や染色整理加工代が値上がり傾向となっており、工賃への圧迫が懸念されている。総体的に、長期に亘る業況不振の影響で資金繰りは非常に悪化しており、運転資金の新規借入れも難しい状況が続いている。(繊維部会)

(織物)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成15年10月～12月 に比べて	前期比 平成16年7月～9月 に比べて	来期見通し 平成17年1月～3月 の見通し
生産額・売上額	-100.0	-14.3	-28.6
製品・商品在庫	-42.8	-28.6	-14.3
資金繰り	-85.7	-28.6	-42.9
採算(収益)	-100.0	-28.5	-42.8
従業員数(含む臨時・パート)	-42.9	-14.3	-14.3
貴社の業況(総合判断)	-100.0	-28.5	-42.8



<業況判断DIの推移>

	H16.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	H17.1～3月見込み
売上	-10.0	-50.0	-22.3	-14.3	-28.6
収益	-50.0	-50.0	-22.2	-28.5	-42.8
総合	-20.0	-50.0	-33.4	-28.5	-42.8

[漁網・ロープ]

繊維ロープ：前年ならびに前期より若干改善しているが、今年で4回となる原材料高を受け、売価への転嫁に苦慮している。

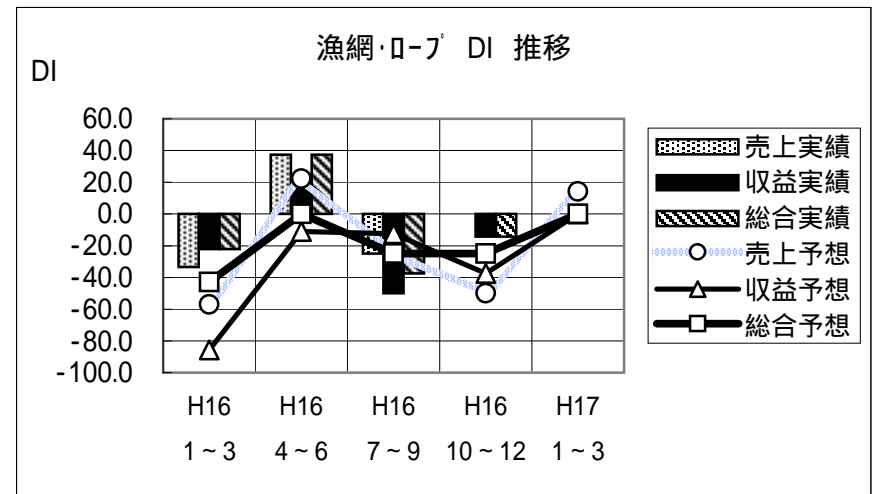
漁網：季節的要因に加え、買換え需要も旺盛のため、生産・出荷とも増加している。一部では労働力確保が課題となっている。

(繊維ロープ部会)

(漁網・ロープ)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成15年10月～12月 に比べて	前期比 平成16年7月～9月 に比べて	来期見通し 平成17年1月～3月 の見通し
生産額・売上額	-14.3	0.0	14.3
製品・商品在庫	-14.3	-14.3	-14.3
資金繰り	-14.3	-28.6	0.0
採算(収益)	0.0	-14.3	0.0
従業員数(含む臨時・パート)	28.6	14.3	14.3
貴社の業況(総合判断)	28.6	-14.3	0.0



<業況判断DIの推移>

	H16.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	H17.1～3月見込み
売上	-33.4	37.5	-25.0	0.0	14.3
収益	-22.2	25.0	-50.0	-14.3	0.0
総合	-22.2	37.5	-37.5	-14.3	0.0

[鉄工]

< 工作機械関係 >

総じて堅調に生産、売上を維持しており、受注残も増えており能力がいっぱいの所もある。要因は輸出(アメリカ・中国)に支えられており、増加傾向が持続しており、国内も自動車向けを中心にIT・デジタル機器関連向けが好調である。

< 自動車部品関係 >

依然として堅調に生産、売上を維持しており、小型車から大型車へシフトも見られ、新車効果による高いレベルの生産・売上が続いている。尚、値下げによる納入単価が厳しく、それに比例して収益は上がらず、各社まちまちである。懸念材料としては、鋼材の高騰、ガソリンの高騰、為替の動向、メカから電子・電気化(部品点数の減少)などがある。

向こう3ヶ月の見通しは

1月以降も、稼働日数の関係があるが、総じて好調に生産・売上をあげて行くと思われる。(金属鉄工部会)

(鉄工) (一般機械器具・輸送用機械・精密機械) (DI 単位:%)

	前年同期比 平成15年10月～12月 に比べて	前期比 平成16年7月～9月 に比べて	来期見通し 平成17年1月～3月 の見通し
生産額・売上額	26.3	10.5	15.7
製品・商品在庫	-5.3	-10.5	-5.3
資金繰り	0.0	0.0	0.0
採算(収益)	5.2	5.3	10.5
従業員数(含む臨時・パート)	21.1	5.2	5.2
貴社の業況(総合判断)	15.8	10.6	10.5

[化学・プラスチック]

化学工業：原油高による原材料費の増加により、収益が上がらない状況である。

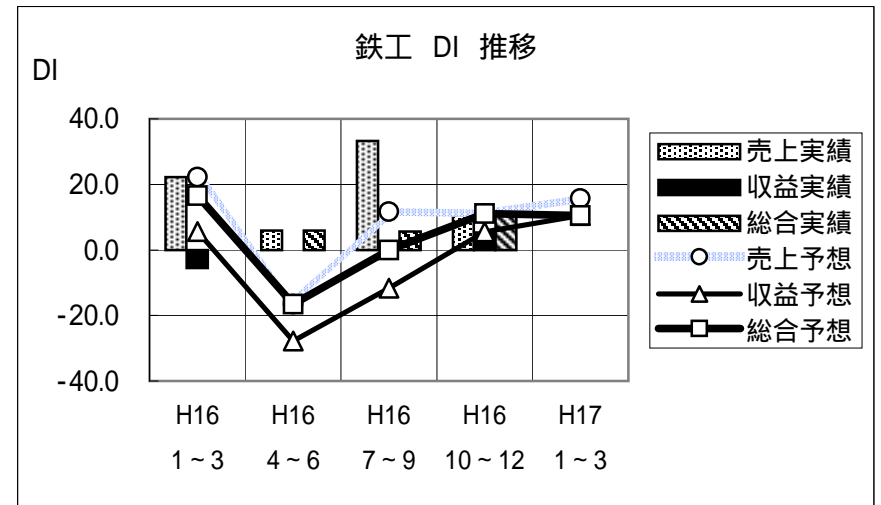
プラスチック製造加工：原材料に対し受注単価の値上げ交渉が伴わず収益悪化の状況である。

向こう3ヶ月の見通しは

売上高、収益とも厳しい状況が続くと思われる。国内の売上の伸びは、今後も期待できないので輸出に注力していくところもある。(化学部会)

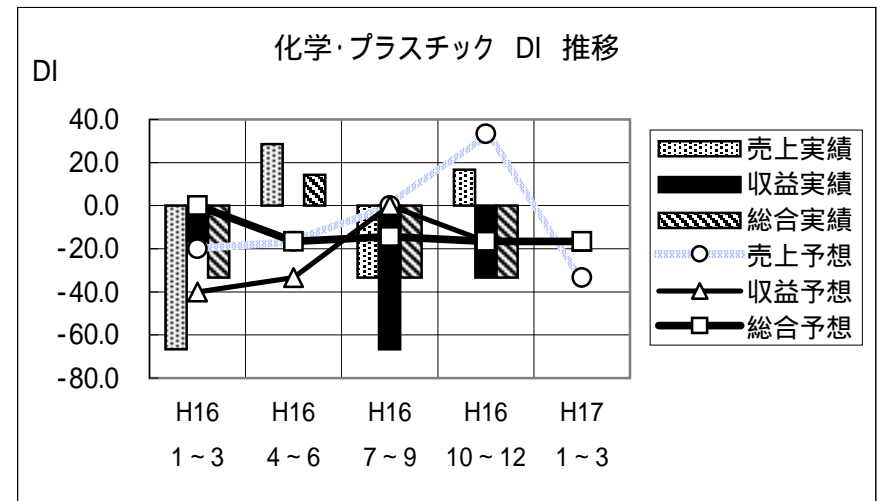
(化学・プラスチック) (DI 単位:%)

	前年同期比 平成15年10月～12月 に比べて	前期比 平成16年7月～9月 に比べて	来期見通し 平成17年1月～3月 の見通し
生産額・売上額	16.7	16.7	-33.3
製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
資金繰り	0.0	0.0	0.0
採算(収益)	-33.3	-33.3	-16.6
従業員数(含む臨時・パート)	-16.7	0.0	0.0
貴社の業況(総合判断)	-33.3	-33.3	-16.6



< 業況判断DIの推移 >

	H16.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	H17.1～3月見込み
売上	22.2	5.9	33.3	10.5	15.7
収益	-5.5	0.0	0.0	5.3	10.5
総合	0.0	5.9	5.6	10.6	10.5



< 業況判断DIの推移 >

	H16.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	H17.1～3月見込み
売上	-66.7	28.6	-33.3	16.7	-33.3
収益	-16.6	0.0	-66.7	-33.3	-16.6
総合	-33.3	14.3	-33.3	-33.3	-16.6

建設業

売上DI値は 20.0、前期実績7～9月期（9.1）に比して29.1ポイントの下降、収益DI値は 50.0、前期実績7～9月期（18.2）に比して31.8ポイントの下降、総合判断DI値は 30.0、前期実績7～9月期（9.1）に比して20.9ポイントの下降、いずれも悪化傾向である。見通しとしても、売上・収益・総合は悪化傾向にある

公共工事については、年度末に向け発注の増加はあるものの絶対量は前年を下回る状況で推移している。民間工事については、相変わらず発注単価が厳しく業者間競争も激しい状況が続いている。全体的には、一部景況は緩やかに改善しつつある部門もあるが、受注減競争激化により、採算的にも厳しい状況が続いている。

向こう3ヶ月の見通しは、

先行き不透明感が強く、状況に大きな変化はなく、横バイ圏内で推移していくものと思われる。

（建設部会）

建設業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成15年10月～12月 に比べて	前期比 平成16年7月～9月 に比べて	来期見通し 平成17年1月～3月 の見通し
生産額・売上額	-30.0	-20.0	-40.0
製品・商品在庫	-20.0	-20.0	-30.0
資金繰り	-10.0	-10.0	-20.0
採算(収益)	-30.0	-50.0	-50.0
従業員数(含む臨時・パート)	-20.0	-10.0	-10.0
貴社の業況(総合判断)	-20.0	-30.0	-30.0

卸売業

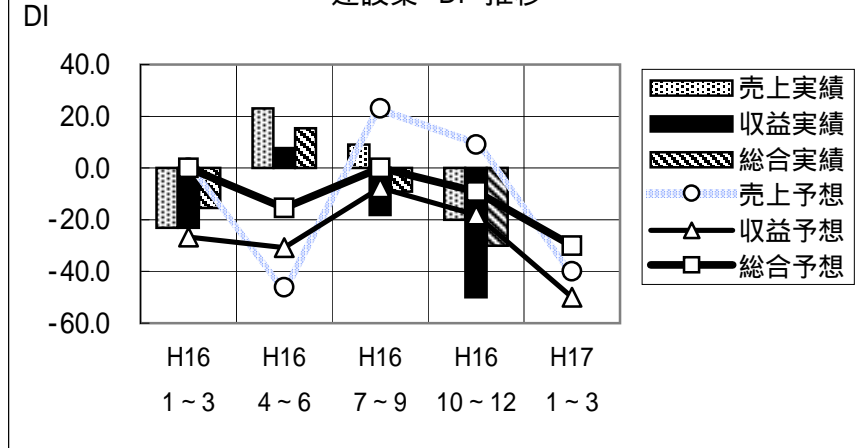
売上DI値は 9.1、前期実績7～9月期（9.1）に比して同値、収益DI値は 22.8、前期実績7～9月期（40.9）に比して23.1ポイントの上昇、総合判断DI値は 9.1、前期実績7～9月期（45.5）に比して36.4ポイントの上昇と、収益・総合は改善傾向であった。見通しとしては、いずれも悪化傾向である。

卸売業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成15年10月～12月 に比べて	前期比 平成16年7月～9月 に比べて	来期見通し 平成17年1月～3月 の見通し
生産額・売上額	-54.6	-9.1	-50.0
製品・商品在庫	-31.8	-27.3	-22.7
資金繰り	-18.2	-13.6	-9.1
採算(収益)	-54.6	-22.8	-31.8
従業員数(含む臨時・パート)	-18.2	-22.7	-22.7
貴社の業況(総合判断)	-50.0	-9.1	-22.8

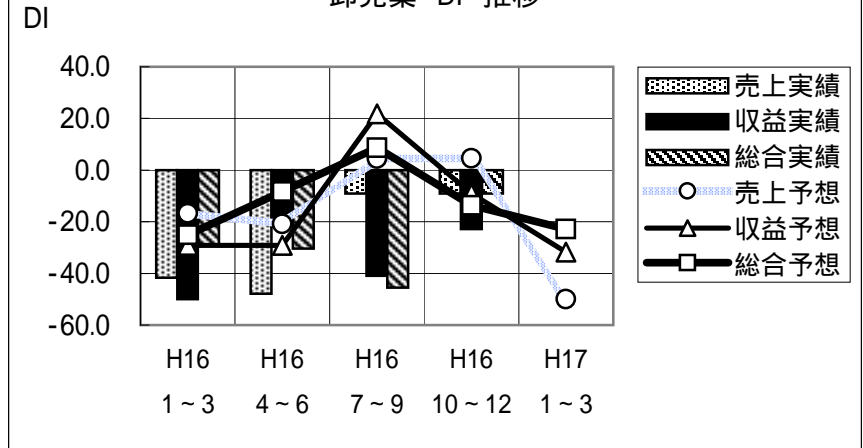
建設業 DI 推移



< 業況判断DIの推移 >

	H16.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	H17.1～3月見込み
売上	-23.1	23.1	9.1	-20.0	-40.0
収益	-23.1	7.7	-18.2	-50.0	-50.0
総合	-15.4	15.4	-9.1	-30.0	-30.0

卸売業 DI 推移



< 業況判断DIの推移 >

	H16.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	H17.1～3月見込み
売上	-41.7	-47.9	-9.1	-9.1	-50.0
収益	-50.0	-21.8	-40.9	-22.8	-31.8
総合	-29.2	-30.4	-45.5	-9.1	-22.8

[繊維卸]

産業資材関連：個人消費の低迷、中国製品の輸入拡大また原油高による原材料の値上げ、合繊系の値上げが更に進んでいる。川下では価格ダウンの話ばかりであり、この状況の中、夏以後ますます荷動きが読めなく、更に悪くなって来ている。商品の動向がつかめない状況である。

寝装関連：来シーズンもガーゼ素材を中心にカバー用ギフト関連で増量が見込めるが、ケツ用としては一服感が見られる。ここ数年来皆無であった素材で麻100%の引き合いが活発で、シャツ・小物資材用でキャンパスタイプの生地生産を1～3月で入る。ただ原料段階の生産背景も乏しく、量的には体制に影響しない。現段階では春夏物の取り込みとしてはまだまだボリュームに欠ける。

インテリア関連：例年1～3月の繁忙期に向けて、徐々に活気づく時期であるが、最近それらしさが薄れている。その中で各社新柄の注文が入り始め、これから期待するところである。産地としては、先の展望が見えるような注文はなく、目先を追いかけるような状況が続いている。三河産地が、設備投資など前向きな話は無く一番悪いと言った声がある。（北陸、岡山には数十台のエアージェット導入が聞かれる。）

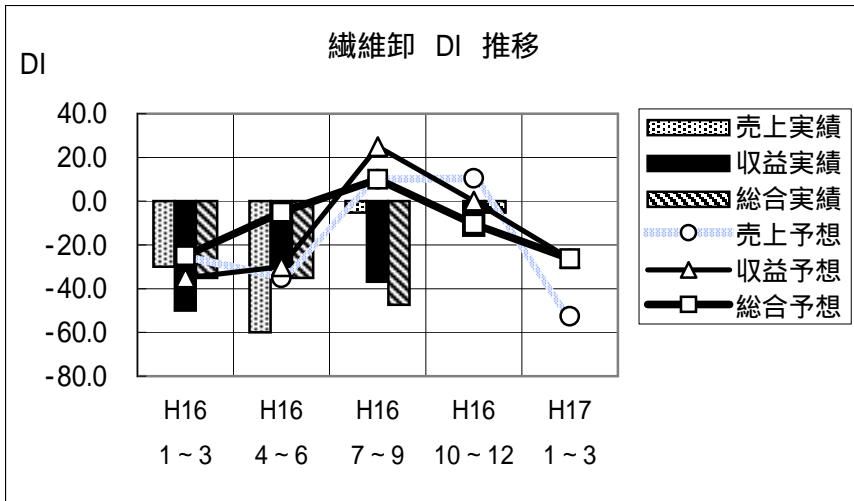
衣料関連：綿織物に代表される短繊維の産地にとって“稼ぎ時”とも言えるシーズンに入っている。例年、生産発注が活発に行われるが、昨年同様ほとんど盛り上がりが無いシーズンインになっている。暖冬による冬物衣料の店頭での売れ行きが超不振と伝えられる中、春物仕込みにも影響が予想され、海外からの製品輸入の増加に加え、気候不順が足かせとなりそう。このように例年になく麻混素材の商品の動きが目についており、海外からの差別化を意識した結果、麻の混率の高い製品、また麻混のストレッチ商品が目目をあびている。

(繊維部会)

(繊維卸)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成15年10月～12月 に比べて	前期比 平成16年7月～9月 に比べて	来期見通し 平成17年1月～3月 の見通し
生産額・売上額	-52.6	0.0	-52.6
製品・商品在庫	-36.9	-36.9	-26.3
資金繰り	-15.8	-10.5	-10.5
採算(収益)	-52.6	-15.8	-26.3
従業員数(含む臨時・パート)	-21.1	-21.1	-26.3
貴社の業況(総合判断)	-47.4	-5.2	-26.3



<業況判断DIの推移>

	H16.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	H17.1～3月見込み
売上	-30.0	-60.0	-5.2	0.0	-52.6
収益	-50.0	-30.0	-36.9	-15.8	-26.3
総合	-35.0	-35.0	-47.3	-5.2	-26.3

小売業

売上DI値は 21.9、前期実績7～9月期(15.2)に比して6.7ポイントの下降。収益DI値は 50.0、前期実績7～9月期(30.3)に比して19.7ポイントの下降、総合判断DI値は 53.2、前期実績7～9月期(33.3)に比して19.9ポイントの下降と、いずれも悪化傾向であった。見通しとしては、いずれも悪化傾向である。

個店での売上が減少しており、ホームセンター・食品スーパー「カインズ」「ベイシア」に続き「サンヨネ」、「エイデン」の相次ぐ大型店の出店とあいまって、個店のみならず大型店へも売上の影響が出ている。一方で、大型店同士の競走が続く、その中にある個店にとって、経営は大変厳しい状況であった。毎月第4日曜日開催されている蒲郡商店街(振)による蒲郡TMO事業のテント市「福寿稲荷ごりやく市」は、中央通りへ多く集客し大健闘した。

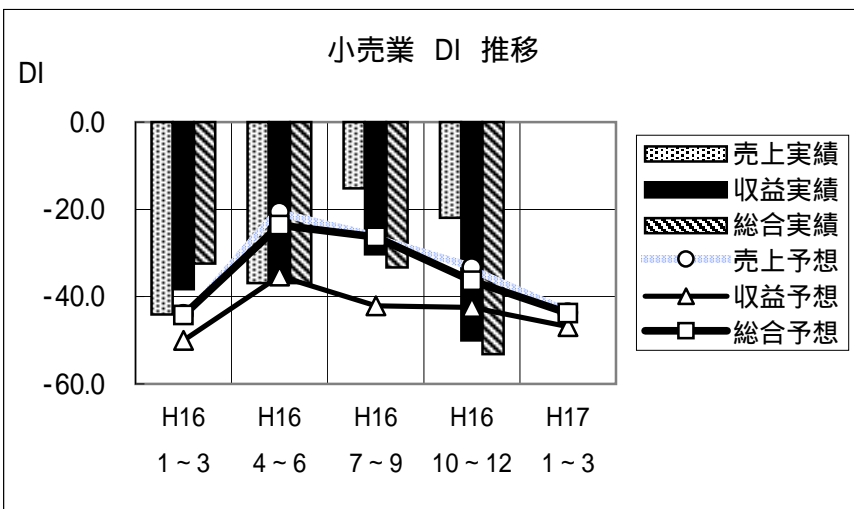
向こう3ヶ月の見通し

新年を迎えるにあたり、景気回復と個人消費の伸びと、各個店の売上増を期待したい。一方で新聞報道では、大型商業施設誘致が浮上しており、個店そして大型店にとっては厳しい経営が予想される。(商業部会)

小売業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成15年10月～12月 に比べて	前期比 平成16年7月～9月 に比べて	来期見通し 平成17年1月～3月 の見通し
生産額・売上額	-56.2	-21.9	-43.7
製品・商品在庫	-6.2	-12.5	3.1
資金繰り	-34.4	-37.5	-34.4
採算(収益)	-50.0	-50.0	-46.9
従業員数(含む臨時・パート)	6.2	3.1	0.0
貴社の業況(総合判断)	-43.8	-53.2	-43.8



<業況判断DIの推移>

	H16.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	H17.1～3月見込み
売上	-44.1	-36.9	-15.2	-21.9	-43.7
収益	-38.3	-36.8	-30.3	-50.0	-46.9
総合	-32.4	-36.9	-33.3	-53.2	-43.8

【飲食】

昼はある程度利用はあるが、夜のお客の利用が伸びない。出前については、三谷まつり等のイベントなどあったが、横バイに推移した。今期は特に野菜類の不作で、価格が高騰し、仕入コストが上がった。

向こう3ヶ月の見通し

歓送迎会などの団体利用に期待したい。また3月25日開幕の愛・地球博を契機に観光客の増加に期待する。（蒲郡市飲食業環境衛生組合連合会）

(飲食)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成15年10月～12月 に比べて	前期比 平成16年7月～9月 に比べて	来期見通し 平成17年1月～3月 の見通し
生産額・売上額	-50.0	-12.5	-50.0
製品・商品在庫	12.5	0.0	0.0
資金繰り	-37.5	-37.5	-25.0
採算(収益)	-50.0	-62.5	-50.0
従業員数(含む臨時・パート)	0.0	0.0	0.0
貴社の業況(総合判断)	-50.0	-62.5	-50.0

【石油等その他小売】

10～12月商戦は灯油が目玉商品だが、前半の販売量は暖冬が影響し前年、前々年大幅減販となった。前年並みの販売量は、期待薄と思われ、以然業界としては厳しい経営状況で昨年より深刻と言える。懸念されるのが灯油の販売不振をガソリンでカバーする安売りの動きが表面化することであり、販売業者が採算意識を強めて市況価格維持に努めることが課題と思われる。

向こう3ヶ月の見通し

需要期のピークを控え、販売量と利益を確保できるかが業界としてポイントとなるが、暖冬予測の中で灯油商戦の出来が鍵になると思われる。一方、原油動向は2005年に入り、循環的な下落局面になって行くと思われ、業界としては目を離せない状況である。依然として厳しい状況が続くと思われる。

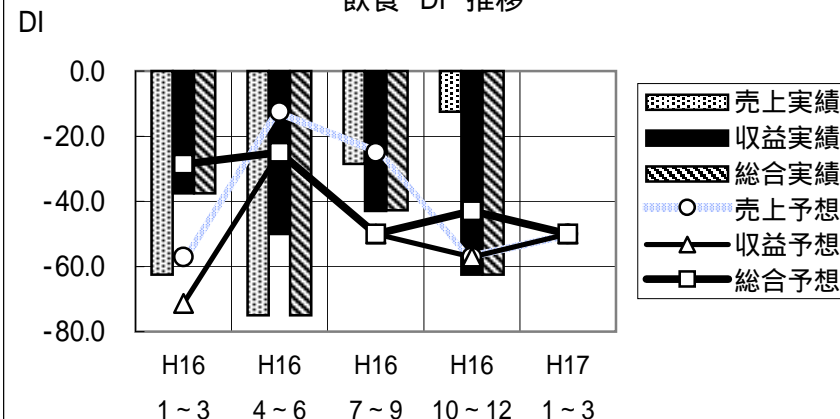
(エネルギー部会)

(石油等その他小売)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成15年10月～12月 に比べて	前期比 平成16年7月～9月 に比べて	来期見通し 平成17年1月～3月 の見通し
生産額・売上額	-42.8	14.3	-28.6
製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
資金繰り	-14.3	-14.3	-14.3
採算(収益)	-42.8	-28.5	-28.6
従業員数(含む臨時・パート)	0.0	0.0	0.0
貴社の業況(総合判断)	-14.3	-14.3	-28.6

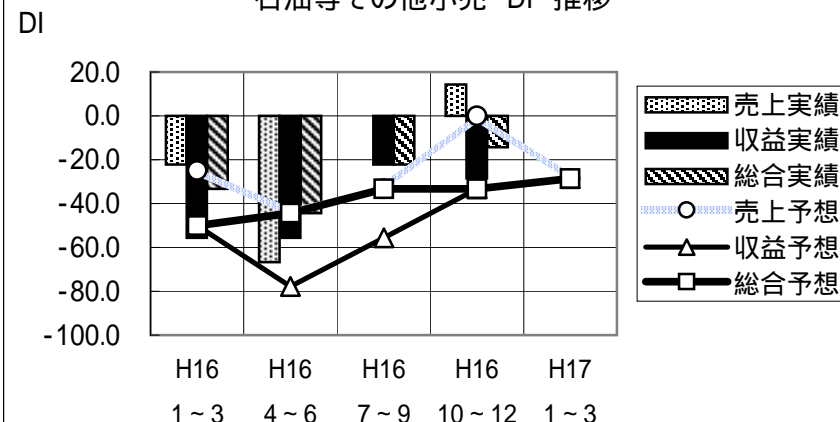
飲食 DI 推移



<業況判断DIの推移>

	H16.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	H17.1～3月見込み
売上	-62.5	-75.0	-28.5	-12.5	-50.0
収益	-37.5	-50.0	-42.9	-62.5	-50.0
総合	-37.5	-75.0	-42.8	-62.5	-50.0

石油等その他小売 DI 推移



<業況判断DIの推移>

	H16.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	H17.1～3月見込み
売上	-22.2	-66.7	0.0	14.3	-28.6
収益	-55.6	-55.6	-22.2	-28.5	-28.6
総合	-33.3	-44.4	-22.2	-14.3	-28.6

サービス業

売上DI値は6.3、前期実績7～9月期（21.4）に比して27.7ポイントの上昇。収益DI値は12.5、前期実績7～9月期（35.8）に比して23.3ポイントの上昇、総合判断DI値は0.0、前期実績7～9月期（14.3）に比して14.3ポイントの上昇と、いずれも改善傾向であった。見通しとしては、いずれも悪化傾向である。

サービス業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成15年10月～12月 に比べて	前期比 平成16年7月～9月 に比べて	来期見通し 平成17年1月～3月 の見通し
生産額・売上額	-43.8	6.3	-37.5
製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
資金繰り	-18.7	-12.5	-18.8
採算(収益)	-43.7	-12.5	-37.5
従業員数(含む臨時・パート)	18.8	25.0	18.7
貴社の業況(総合判断)	-31.2	0.0	-25.0

【旅館】

秋の行楽、冬の忘年会シーズンとして年間のトップシーズンとなるが、今年は東名高速の集中工事、台風による塩害・暖冬による香嵐渓の不振等により、前年実績をなんとか維持する状況である。また忘年会においても一部業績の良い企業に支えられてはいるものの全体的には渋い。利用料金の低下・付帯売上の落ち込みも続いており、利用人員の増加の努力をして売上の確保をしている現状である。また台風等自然災害による野菜類等調理原価の高騰、原油の値上りによる燃料費等の影響もあり、厳しい経営環境下にある。

向こう3ヶ月の見通し

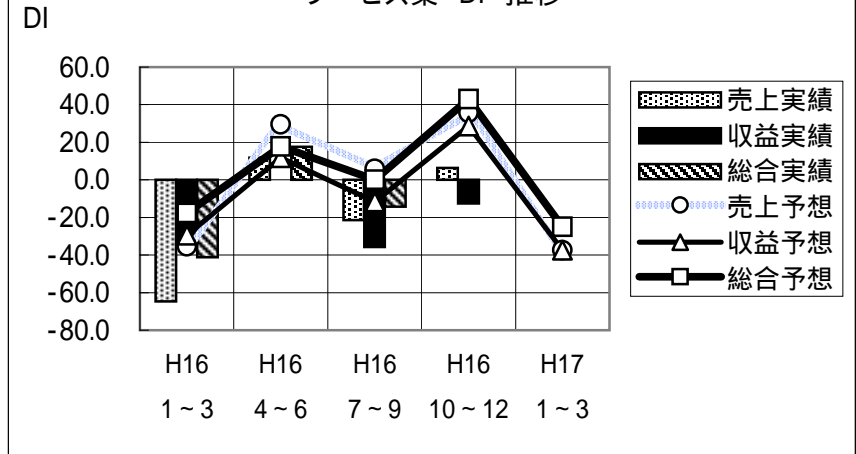
例年、初詣・新年会と1月から2月にかけては期待できるシーズンであるが、予約状況は楽観を許さない状況である。特に前年の台風・地震等自然災害の影響による出控え、3月25日愛・地球博オープン前の出控え、さらに県内の利用客減少状況の影響が予想される。一方、経費面においても前年に引き続き料理原材料、飲物（ビール）の値上り、原油高の影響は必至であり、厳しい経営が予測される。（観光部会）

(旅館)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成15年10月～12月 に比べて	前期比 平成16年7月～9月 に比べて	来期見通し 平成17年1月～3月 の見通し
生産額・売上額	-50.0	25.0	-50.0
製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
資金繰り	-12.5	-12.5	-25.0
採算(収益)	-50.0	-12.5	-50.0
従業員数(含む臨時・パート)	12.5	12.5	0.0
貴社の業況(総合判断)	-37.5	0.0	-37.5

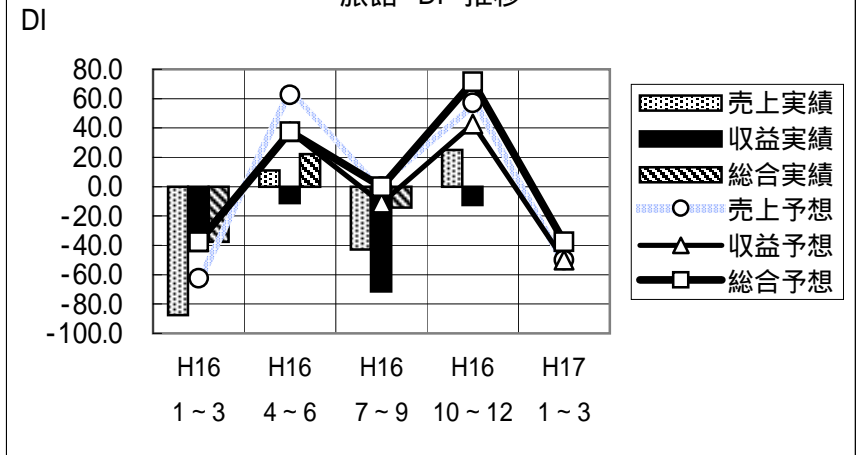
サービス業 DI 推移



<業況判断DIの推移>

	H16.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	H17.1～3月見込み
売上	-64.7	11.8	-21.4	6.3	-37.5
収益	-35.3	0.0	-35.8	-12.5	-37.5
総合	-41.2	17.6	-14.3	0.0	-25.0

旅館 DI 推移



<業況判断DIの推移>

	H16.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	H17.1～3月見込み
売上	-87.5	11.1	-42.8	25.0	-50.0
収益	-37.5	-11.1	-71.4	-12.5	-50.0
総合	-37.5	22.2	-14.3	0.0	-37.5

運輸通信業

売上DI値は10.0、前期実績7～9月期（20.0）に比して30.0ポイントの上昇。収益DI値は10.0、前期実績7～9月期（20.0）に比して10.0ポイントの上昇。総合判断DI値は0.0、前期実績7～9月期（30.0）に比して30.0ポイントの上昇と、いずれも改善傾向であった。見通しとしては、売上・収益ともは悪化傾向であり、総合では横バイである。

運輸通信業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成15年10月～12月 に比べて	前期比 平成16年7月～9月 に比べて	来期見通し 平成17年1月～3月 の見通し
生産額・売上額	10.0	10.0	0.0
製品・商品在庫	-10.0	0.0	-10.0
資金繰り	0.0	-10.0	-10.0
採算(収益)	-20.0	-10.0	-30.0
従業員数(含む臨時・パート)	10.0	10.0	0.0
貴社の業況(総合判断)	-30.0	0.0	-10.0

【旅客・貨物輸送・水運】

海運関係：輸入原木、木材製品は例年並みである。輸入肥料は大型船での入荷（1万トン）あるものの、他貨物の入荷は無い。ただし、12月第3週のみ本船多数（10隻）の入港があった。輸出車に関しては、取扱いが無かった。

今後の見通し、輸入原木、木材、製品は例年並の動きと予想される。移出鑄物砂の取扱いは順調に推移の予定である。

陸運関係：貨物量について、一般貨物については暖冬の影響により冬物の動きが鈍く前期に比べ減少、小口貨物については、お歳暮商品による微増、また自動車部品に関しては、景況感を反映して増加傾向にある。ただ業界にとっては、稼働日数による貨物量の影響は大きい。特定地域における車両の代替、随時スピードリミッターの取り付け、燃料単価、タイヤ等消費財の高騰による影響で業界の環境は引き続き悪い。また暫定軽油引取税7.8円の撤廃、高速道路使用料の値下げ割引率の見直し等も引き続き要請していく。以上の状況下、事業の廃止、縮小も余儀なくされている事業者も多数ある。

今後の見通し、3月期末に向け貨物量も全体的に大きく増加するものと思われる。活発な動きを期待している。

バス業界関係：台風の上陸や暖冬のため、旅行のキャンセルや需要の減少が影響し、前年同期に比べ悪化している。

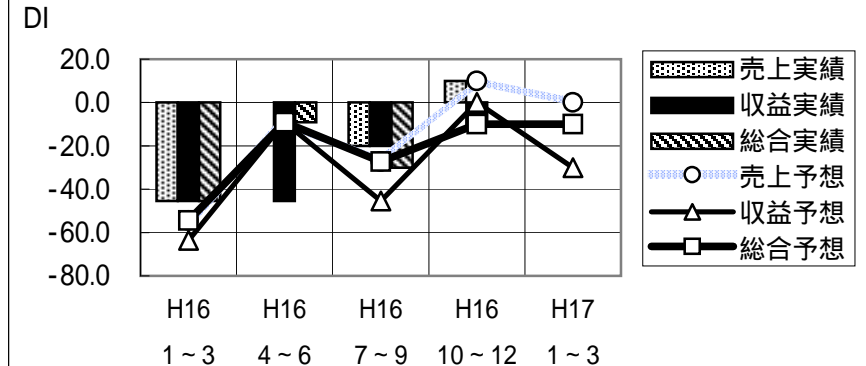
今後の見通し、一時的には万博による大幅な需要増も予想されるが、近距離が中心で業績に与える効果は必ずしも明るいとは言えず、一層の業務の効率化を図る必要がある。（運輸交通港湾部会）

(旅客・貨物輸送・水運)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成15年10月～12月 に比べて	前期比 平成16年7月～9月 に比べて	来期見通し 平成17年1月～3月 の見通し
生産額・売上額	0.0	0.0	0.0
製品・商品在庫	-14.3	0.0	-14.3
資金繰り	0.0	-14.3	-14.3
採算(収益)	-28.6	0.0	-28.5
従業員数(含む臨時・パート)	14.3	14.3	0.0
貴社の業況(総合判断)	-42.9	0.0	-14.3

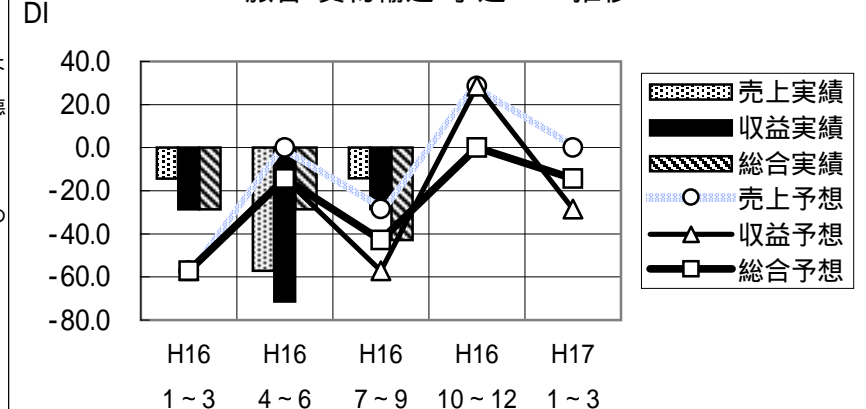
運輸通信業 DI 推移



< 業況判断DIの推移 >

	H16.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	H17.1～3月見込み
売上	-45.4	0.0	-20.0	10.0	0.0
収益	-45.4	-45.4	-20.0	-10.0	-30.0
総合	-45.4	-9.1	-30.0	0.0	-10.0

旅客・貨物輸送・水運 DI 推移

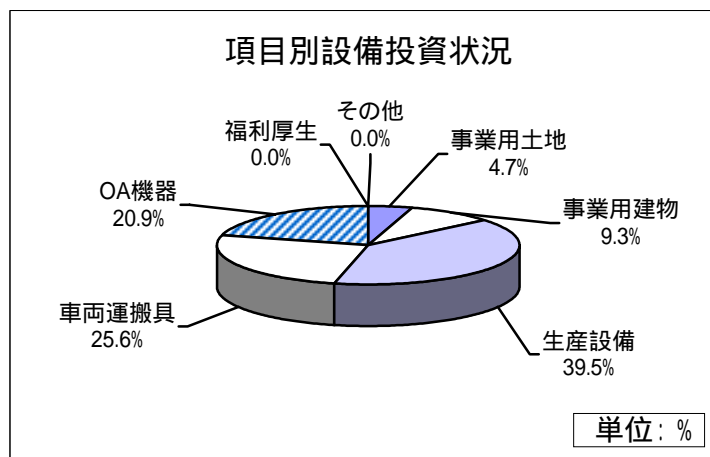
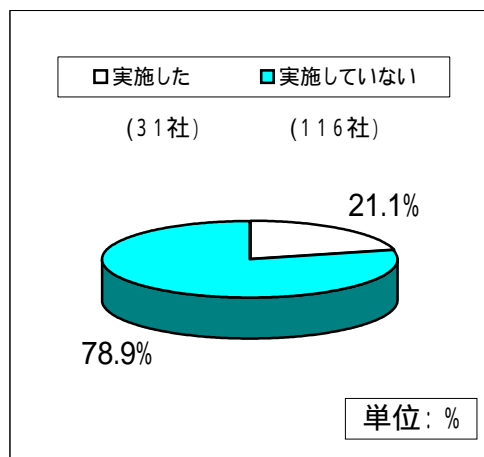


< 業況判断DIの推移 >

	H16.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	H17.1～3月見込み
売上	-14.3	-57.1	-14.2	0.0	0.0
収益	-28.6	-71.4	-28.5	0.0	-28.5
総合	-28.6	-28.6	-42.9	0.0	-14.3

7. 設備投資動向

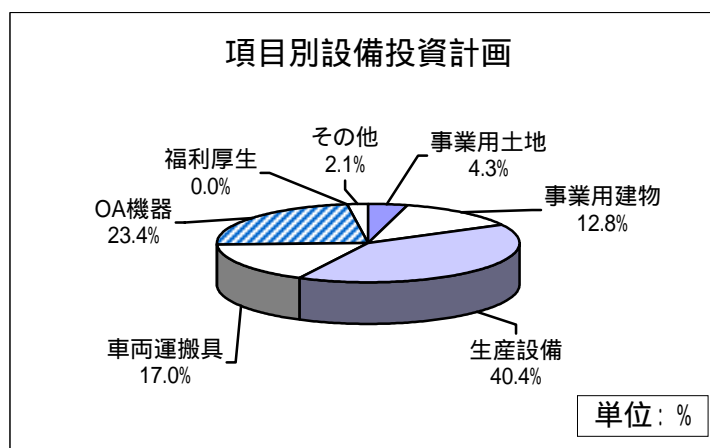
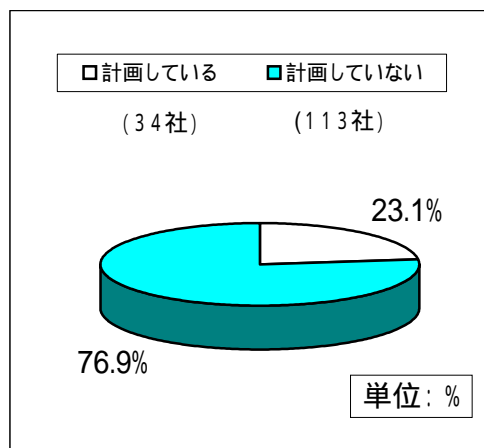
< 今期(H16.10～12月)設備投資実施状況 全業種 >



・10～12月期に設備投資を実施した企業は、31社(21.1%)あり、項目別には43件ある。そのうち生産設備(39.5%)、車両運搬具(25.6%)、OA機器(20.9%)に投資された。

・1～3月期に設備投資計画のある企業は、34社(23.1%)あり、項目別には47件ある。そのうち、生産設備(40.4%)、OA機器(23.4%)、車両運搬具(17.0%)の投資計画である。

< 来期(H17.1～3月)設備計画 全業種 >



設備投資・計画内容(全業種)

	今期	来期見通し
事業用土地	2	2
事業用建物	4	6
生産設備	17	19
車両運搬具	11	8
OA機器	9	11
福利厚生	0	0
その他	0	1
計	43	47

(単位:件)

今期(H16.10～12月)、来期(H17.1～3月)設備投資実施、計画動向

	全業種	製造業	建設業	卸売業	小売業	サ-ビス業	運輸通信業
1. 今期(H16.10～12月)	31	19	1	3	4	1	3
2. 来期(H17.1～3月)	34	21	1	3	2	3	4

(単位:事業所)

8. 経営上の問題点

項目別経営上の問題点(全業種)

(上位5項目 回答企業数 147 社)

	項目	件数 %
1	売上の停滞・減少	101 68.7%
2	利幅の縮小	78 53.1%
3	競争激化	68 46.3%
4	原材料(燃料)高	45 30.6%
5	販売納入先からの値下げ要請	24 16.3%

(複数回答の為、総数と一致しません。)

・項目別経営上の問題点は、上位4位までは前回と比べ順位は同じである。

・業種別経営上の問題点は、全業種とも1位に『売上の停滞・減少』、2位に『利幅の縮小』『競争激化』をあげている。

業種別経営上の問題点

(上位3項目)

	1 位	2 位	3 位
製造業	売上の停滞・減少 57 社	利幅の縮小 30 社	原材料(燃料)高 29 社
	36 社 63.2%	52.6%	50.9%
建設業	売上の停滞・減少 10 社	利幅の縮小 7 社	競争激化 6 社
	7 社 70.0%	70.0%	60.0%
卸売業	売上の停滞・減少 22 社	利幅の縮小 12 社	競争激化 9 社
	17 社 77.3%	54.5%	40.9%
小売業	売上の停滞・減少 32 社	競争激化 20 社	利幅の縮小 19 社
	24 社 75.0%	62.5%	59.4%
サ - ビス業	売上の停滞・減少 16 社	競争激化 9 社	消費者ニーズの変化の対応 6 社
	10 社 62.5%	56.3%	37.5%
運輸通信業	売上の停滞・減少 10 社	利幅の縮小 5 社	原材料(燃料)高 5 社
	7 社 70.0%	50.0%	50.0%

(複数回答の為、総数と一致しません。)

付帯調査(地域デ - タ)

番号	調査項目	単位	H16.10報告	基準日	H16.7報告	基準日	H16.4報告	基準日	参照資料
1	人口	人	81,835	H16.10.1	81,826	H16.7.1	81,893	H16.4.1	市民課住民基本台帳
2	世帯数	世帯	27,297	H16.10.1	27,223	H16.7.1	27,156	H16.4.1	"
3	15才～65才生産人口	人	54,328	H16.10.1	53,387	H16.7.1	54,405	H16.4.1	市民課
4	外国人登録者数	人	1,507	H16.9.30	1,461	H16.6.30	1,408	H16.3.31	"
5	建築確認届出件数	件	132	H16.6月～16.8月	128	H16.3月～16.5月	114	H15.12月～16.2月	建築住宅課受付件数(別紙参照)
6	全国完全失業率	%	4.8	H16.8月	4.6	H16.5月	5.0	H16.2月	総務省(別紙参照)
	愛知県完全失業率	%	3.7	H16.4～6月	3.7	H16.1～3月	4.0	H15.10～12月	総務省(愛知県産業労働総務課より)
7	全国有効求人倍率	倍	0.83	H16.8月	0.80	H16.5月	0.77	H16.2月	総務省(別紙参照)
	蒲郡管内有効求人倍率	倍	0.86	H16.8月	0.85	H16.5月	0.83	H16.2月	蒲郡公共職業安定所(業務月報より)

ラグーナ蒲郡 入園・入館者数

(1) ラグナシア

(単位:千人)

実数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
H14年度	38	137	95	114	274	91	72	66	65	50	25	69	1,096
H15年度	54	85	40	74	237	54	38	45	48	35	22	47	779
H16年度	51	98	36	90	225								500

目標数: H14年度100万人、H15年度100万人、H16年度90万人

(単位:%)

前年比	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
H15/H14	142.1	62	42.1	64.9	86.5	59.3	52.8	68.2	73.8	70	88	68.1	71.1
H16/H15	94.4	115.3	90	121.6	94.9								102.0

(2) フェスティバルマーケット

(単位:千人)

実数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
H14年度		219	390	295	504	294	252	253	239	238	186	248	3,118
H15年度	232	293	249	254	399	213	207	219	227	212	189	220	2,914
H16年度	210	282	204	222	341								1,259

目標数: H14年度220万人、H15年度250万人、H16年度290万人

(単位:%)

前年比	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
H15/H14		133.8	63.8	86.1	79.2	72.4	82.1	86.6	95	89.1	101.6	88.7	93.5
H16/H15	90.5	96.2	82.9	87.4	85.5								88.2

(参考)

	夏休み(万人)					盆休み(万人)				
	H14	H15	前年比	H16	前年比	H14	H15	前年比	H16	前年比
ラグナシア	35	30	85.7%	30	100.0%	11	8	72.7%	10	125.0%
FM	48	53	110.4%	47	88.7%	20	16	80.0%	13	81.3%

(9/22セミナー資料による)